

文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

目的 東京文化財研究所で行われている調査研究に関する情報及び国内外の文化財に関するさまざまな情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、それらの情報の効果的な公開の手法に関する調査研究を行う。

成果 1. デジタル画像の形成方法の研究開発

ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトの一環として、東京文化財研究所内外において、東京国立博物館所蔵の平安仏画など、多数の文化財の光学的調査やガラス乾板からの画像取得を実施、一部については成果報告書を編纂した。また、調査研究の成果を論文や研究会等で発表した。

イ) 文化財アーカイブズ研究室と連携し光学調査に関するデジタルコンテンツ作成を実施した。また、『春日権現験記巻十九・巻二十 光学調査報告書』を2018(平成30)年12月14日付で刊行した。

2. 文化財情報に関する調査研究

文化財情報研究室で構築したウェブデータベースとその構築過程、及び運用についてまとめ、成果を論文や学会等で発表した。

3. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信

ア) 研究情報の発信の一環としてウェブサイトの運用を実施した。平成30年度は、2件のウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、メールマガジン、SNS (Facebook及びTwitter) を通じて、国内外の文化財関係者に対し活動報告や催事などウェブサイトの更新情報を中心に提供した。

イ) 2018(平成30)年6月30日付で『東京文化財研究所年報2017』を刊行した。編集にあたっては、各部・センターの年報部会員の協力を得た。

ウ) 研究成果を紹介するパネルをエントランスロビーにおいて展示した。平成30年度は文化財情報資料部による「文化財の光学的調査と記録の継承」と題した展示を実施した。

4. 調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実

ア) ネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を実施、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換を行いセキュリティ水準の維持・向上に努めた。また、職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、2回の「情報システム部会研修会」を開催した。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティ関連業務は、各部・センターの情報システム部会員と連携して実施している。

イ) 所内一所外間の情報の出入を制御するファイアウォール及びプロキシの機能を統合したセキュリティシステム、ネットワーク機器の動作記録(ログ)を管理するログサーバーを導入、無線LANアクセスポイント及びコントローラーを更新した。

ウェブサイトアクセスランキング

1	東京文化財研究所トップ	6	『保存科学』
2	ガラス乾板データベース	7	黒田清輝日記トップページ
3	『日本美術年鑑』所載物故者記事	8	黒田清輝日記(日付別)
4	書画家人名データベース	9	『美術画報』所載図版データベース
5	『日本美術年鑑』所載美術界年史彙報	10	年記資料集成

(平成30年度 上位10位まで)

ウェブサイトの主な更新履歴

年月日	更新内容	関係部局
18.4.5	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技 16 近代文化遺産の保存理念と修復理念』、『未来につなぐ人類の技 17 煉瓦造建造物の保存と修復』公開	保存科学研究センター
18.4.10	Workshop on Conservation and Restoration of Urushi Objects 2018 参加者募集	文化遺産国際協力センター
18.4.16	シンポジウム「“ここ”の歴史へー 幻のジェットエンジン、語るー」開催	保存科学研究センター
18.4.27	記録された日本美術史ー相見香雨、田中一松、土居次義の調査ノート展ー開催	文化財情報資料部
18.5.8	ゲッティ研究所副所長 キャスリーン・サロモン氏講演会報告書 公開	文化財情報資料部
18.5.15	明治大正期書画家番付データベース及び書画家人名データベース(明治大正期書画家番付による) 公開	文化財情報資料部
18.6.6	エントランスロビーパネル展示「文化財の光学的調査と記録の継承」	文化財情報資料部
18.6.7	第12回公開学術講座・第24回東京三味線・東京琴 展示・製作実演会 開催	無形文化遺産部
18.7.27	東京文化財研究所長の逝去	東京文化財研究所
18.9.14	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技 18 鉄建造物の保存と修復』公開	保存科学研究センター
18.9.27	第52回オープンレクチャー かたちからの道、かたちへの道 開催	文化財情報資料部
18.9.27	平成30年度 文化財修復の現状と諸問題に関する研究会 開催	保存科学研究センター
18.10.15	イタリアの「1972年修復憲章」(論文・翻訳) ウェブ公開	保存科学研究センター
18.11.16	研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」開催	文化遺産国際協力センター
18.12.20	国際研修「紙の保存と修復」2019 参加者募集	文化遺産国際協力センター
19.1.8	東京文化財研究所 新所長就任	東京文化財研究所
19.1.16	第二回無形文化遺産映像記録作成研究会 開催	無形文化遺産部
19.1.25	国際シンポジウム「台湾における近代化遺産活用の最前線」開催	保存科学研究センター

(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

論文・早川泰弘ほか：「春日権現験記絵の彩色材料調査（巻十九・巻二十）〈巻十九〉」『春日権現験記絵 巻十九・巻二十 光学調査報告書』東京文化財研究所 pp.XRF28-30 18.12 ほかに4件

発表・城野誠治：「光学的調査の方法と成果ー科学写真からわかること」那智参宮曼荼羅絵巻本の仕立てを探る 18.12.8

・小山田智寛ほか：「文化財情報の総合データベースシステムの構築と運用」デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 19.3.15-16 ほかに5件

刊行物・『春日権現験記絵巻十九・巻二十 光学調査報告書』東京文化財研究所 18.12

研究組織 ○二神葉子、山梨絵美子、江村知子、塩谷純、小林公治、小林達朗、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、城野誠治、三島大暉、逢坂裕紀子、谷口每子、安岡みのり、丸山礼(以上、文化財情報資料部)

広報委員(情報システム部会)：佐野千絵(保存科学研究センター長)

各部署情報システム部会員：安達佳弘、大島大輔(以上、研究支援推進部)、小野真由美(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)、吉田直人、倉島玲央(以上、保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)

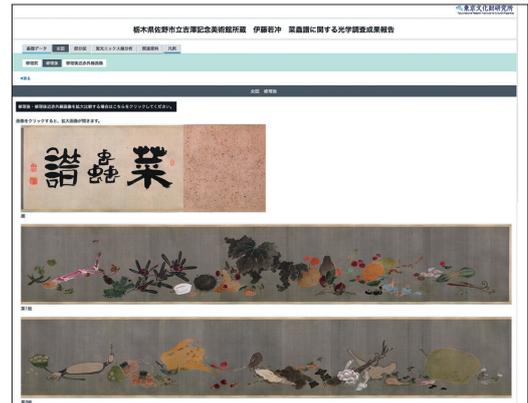
広報委員(年報部会)：山梨絵美子(副所長)

各部署年報部会員：安川政和、三本松俊徳(以上、研究支援推進部)、小林公治(文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部)、倉島玲央(保存科学研究センター)、友田正彦(文化遺産国際協力センター)

専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充(シ06)

目 的 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。併せてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

- 成 果**
1. アーカイブズ・ワーキンググループ協議会の開催
全所的に文化財情報を発信するため、4半期ごとにアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を開催した(2018(平成30)年5月11日、6月14日、9月25日、2019(平成31)年3月19日)。成果公開のための情報の標準化・規格化を進めた。
 2. 刊行物アーカイブズ・システムを運用・評価し、継続的・安定的な研究情報の蓄積・公開を推進し、さらに所蔵資料の管理の効率化と情報発信力強化のため、新たに図書館システムを導入した。
 3. 明治・大正期刊行の貴重書、写真資料のデジタル化推進
 - ・当研究所及び東京美術倶楽部所蔵の売立目録について、データ入力とシステム改良を行い、売立目録デジタルアーカイブを完成させ、公開の準備を進めた。
 - ・当研究所の所蔵する写真資料、近現代の美術作品カード(絵葉書資料)等のデータ入力を進め、公開のための準備を行った。
 4. 美術資料のデータ化と成果公開
薬師寺所蔵「国宝 吉祥天画像」および栃木県佐野市吉澤記念美術館所蔵「伊藤若冲筆 菜蟲譜」に関するデジタルコンテンツを作成し、所内公開を行った。
 5. 所蔵資料の保存と活用(田中一松資料の公開)
実践女子大学香雪記念資料館・京都工芸繊維大学美術工芸資料館「記録された日本美術史―相見香雨・田中一松・土居次義の調査ノート展」に協力し、田中一松資料を初公開したほか、口頭発表を行った。



佐野市吉澤記念美術館所蔵「伊藤若冲筆 菜蟲譜」のデジタルコンテンツ トップ画面

閲覧室事業の運営

1. 年度内資料受け入れ数
和漢書3,833件、洋書70件、展覧会図録・報告書等7,092件、雑誌1,647件(合計12,165件)
2. 年度内閲覧室利用状況
公開日総数137日・年間利用者合計1,070人

- 論 文**・江村知子：「田中一松資料について」「記録された日本美術史―相見香雨・田中一松・土居次義の調査ノート展」シンポジウム 18.7.7
- ・江村知子：「田中一松の眼と手―田中一松資料、鶴岡在住期の資料および絵画作品調書を中心に」第8回文化財情報資料部研究会 19.1.29

研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人、早川典子(以上、保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、加藤雅人、西和彦(以上、文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣、片山まび(以上、客員研究員)

平成30年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

目的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

- 成果
- 2018(平成30)年10月26日、27日の2日間にわたり、専門家はもとより広く一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。研究所内部より2名、外部より2名の講演を行った。それぞれの講演テーマは次の通りである。
 - ・小山田智寛（文化財情報資料部研究員）「文化財データベースの作成とその意義について」
 - ・水野裕史（筑波大学助教）「雪村周継と臨済宗幻住派—大雄山法雲寺を起点に一」
 - ・山梨絵美子（副所長）「裸婦に表わされた地域性—フジタ・常玉・陳澄波を例に」
 - ・呉孟晋（京都国立博物館主任研究員）「伝統を現代につなぐ：齊白石が描いた花鳥のかたち」
 - 外部からの聴講者は10月26日66名、27日68名の参加を得た。参加者からのアンケート結果では、10月26日の56名の回答者数のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ76.8%、10月27日の54名の回答者のうち「大変満足した」、「おおむね満足だった」を合わせ94.5%の回答を得ることができた。



オープンレクチャーの様子

研究組織 ○小林達朗、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、塩谷純、小野真由美、安永拓世、米沢玲、橘川英規、小山田智寛、三島大暉、野城今日子（以上、文化財情報資料部）

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (ム03)

目 的 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

成 果

1. 音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡のテープ録音についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
2. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープのうち、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
3. 無形文化遺産関連の音声資料9枚、映像資料78枚を所蔵資料として新たに登録した。

研究組織 ○飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予、佐野真規、金昭賢、半戸文、牛村仁美(以上、無形文化遺産部)

文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (コ01)

目的 文化遺産の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワーク構築を推進する。

成果 1. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の国際会議やシンポジウム等に出席した。収集した情報は整理して蓄積するとともに、下記の世界遺産研究協議会開催をはじめとして、様々な機会を捉えて関係自治体等関係者に対して情報の周知を図った。



第42回世界遺産委員会（マナーマ）

- ・ 2018(平成30)年6月23日～7月5日 第42回世界遺産委員会(マナーマ)
 - ・ 2018(平成30)年11月13日～17日 第91回国際文化財保存修復研究センター理事会(ローマ)
2. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の調査を行った。収集した情報はデータベース等に蓄積するとともに、情報共有を行った。
- ・ 2018(平成30)年5月30日 新潟県・佐渡市(世界遺産推薦準備状況にかかる調査)
 - ・ 2018(平成30)年7月12日 福岡県・福岡市(文化遺産保護にかかる海外での制度の調査)
3. 文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、『各国の文化財保護法令シリーズ [23] ポーランド』を刊行した。
4. 上記の成果について広く共有を図るため、「世界遺産研究協議会」を開催し、関係自治体等に対して得られた情報・知見の周知を図った。

発表 二神葉子：「OUV にまつわる課題－世界遺産委員会での議論を中心に－」世界遺産研究協議会 18.9.28

・ 境野飛鳥：「第42回世界遺産委員会の報告」世界遺産研究協議会 18.9.28

刊行物 『各国の文化財保護法令シリーズ [23] ポーランド』東京文化財研究所 19.3

・ 『世界遺産研究協議会「戦略的OUV選択論」』東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○西和彦、中山俊介、境野飛鳥、増淵麻里耶、橋本広美、石田智香子(以上、文化遺産国際協力センター)、二神葉子(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

無形文化遺産部

第12回無形文化遺産部公開学術講座 (A01の一部として実施)

無形文化遺産部では、無形文化財ならびに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、毎年、公開学術講座を行っている。今年は「伝統の音を支える技」の一環として「第12回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座」を2018(平成30)年8月3日に東京文化財研究所にて開催した。本事業は、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団及び文化庁の助成、東京都・公益社団法人日本三曲協会・一般社団法人長唄協会・公益財団法人日本伝統文化振興財団及び東京都伝統工芸士会の後援を受けて開催し、その成果は報告書として刊行した。

日時：2018(平成30)年8月3日(金) 13:30~16:45

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：148名

テーマ：「伝統の音を支える技」

内容：【講演】司会：石村智(無形文化遺産部)

前原恵美(無形文化遺産部)

「楽器製作・修理技術の調査から見えてくること」

橋本英宗(丸三ハシモト株式会社)

「邦楽器系から世界への挑戦—日本の音色を世界の音色へ—」

田村民子(伝統芸能の道具ラボ)

「伝統芸能の道具の課題を社会にひらく」

【総括】「伝統の音を支える技の今とこれから」

上記報告者と下記コメンテーターで総括を行った。

コメンテーター：谷垣内和子(公益社団法人日本芸能実演家団体協議会)

【長唄演奏】《多摩川》

唄：三井千絵・大島早智 三味線：鈴木雄司・都築明斗



保存科学研究センター

加湿温風殺虫処理に関する専門家研究集会 (ホ01の一部として実施)

歴史的木造建造物の木材害虫による被害は、貴重なオリジナルの木材を損失させるだけでなく、虫害によって空洞化した木材は知らない間に構造材としての強度を損なうリスクもあり深刻な問題のひとつである。本専門家会合は、このような虫害のある歴史的木造建造物の殺虫処理方法として国内でも初となった日光中禅寺愛染堂での現地処理試験の成果を報告したうえで、関連分野の専門家のご意見をいただきながら、本法の今後の課題や展望について議論した。

日時：2018(平成30)年6月21日(木) 15:00~17:00

会場：東京文化財研究所 地下会議室

講演：木川りか(九州国立博物館)「大規模ガス燻蒸から加湿温風殺虫処理へ」

藤井義久(京都大学、客員研究員)「日光中禅寺愛染堂での湿度制御温風殺虫処理」

討議：梅津章子、番光、小澤栄一(以上、文化庁)、小暮道樹、長修、原田正彦(以上、(公財)日光社寺文化財保存会)、福岡憲((公財)文化財建造物保存技術協会)、北原博幸(トータルシステム研究所、客員研究員)、佐野千絵、北河大次郎、犬塚将英、小峰幸夫、佐藤嘉則(以上、東京文化財研究所)

文化財修復の現状と諸問題に関する研究会 (ホ05の一部として実施)

運営費交付金事業「文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究」の一環として、文化財の現状と問題点に関しての情報共有を目的として研究会を開催した。近年、文化財に対する活用が積極的に推進されているが、それに伴い、修復対象とされる文化財も増加している。その中で、従来の修復方法や修復に対する概念では対応できなくなってきた事例も増加している。

この研究会では、今までの修理の概況に関して共有した上で、現在の修復の際に認識される問題点を分野横断的にご発表いただいた。

日 時：平成30年11月22日(木) 13:30～17:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：東京文化財研究所

参加者：104名

開会挨拶：佐野千絵(東京文化財研究所保存科学研究センター)

趣旨説明：早川典子(東京文化財研究所保存科学研究センター)

【総 論】美術工芸品修理への思い：佐々木利和(北海道大学)

【各 論】近年の歴史資料修理の成果と課題：地主 智彦(文化庁)

文化財修復の現状と近年の問題点～「十二の鷹」を中心に～：北村仁美(東京国立近代美術館)

平成30年における絵画修理：中野慎之(京都府)

【質疑応答】総合討議(司会：早川典子)

世界遺産研究協議会「戦略的 OUV 選択論」(④コ01の一部として実施)

コ01プロジェクトで行っている諸研究のうち、世界遺産に関する制度と最新の動向についての情報を提供するため、平成29年度に引き続き研究協議会を開催し、外部研究者を含む5名の発表を行った。本年度は、世界遺産委員会で行われた議論等についての報告に加え、世界遺産の推薦書作成にあたって顕著な普遍的価値(OUV)をどのように考えるかについて、様々な立場からの報告を通じて、その実際について知る機会を提供した。

日 時：2018(平成30)年9月28日(金) 13:00～20:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：71名

発表者及び題名：境野飛鳥(東京文化財研究所)「第42回世界遺産委員会の報告」

二神葉子(東京文化財研究所)「OUVにまつわる課題ー世界遺産委員会での議論を中心にー」

川口洋平(長崎県)「推薦書作成物語-地元の思いと登録基準の狭間で-」

松浦利隆(群馬県立女子大学)「OUVをどう「物語る」か」

平田賢明(小値賀町教育委員会)「OUVと資産保全の課題-長崎県野崎島の事例-」

質疑応答

懇談会・ミニプレゼンテーション：

下村優理(堺市)「推薦書作成にかかる英訳業務」

松岡明子(香川県)「四国八十八箇所霊場と遍路道」

研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」(③コ02の一部として実施)

東南アジアの木造建築文化をテーマとする研究会を平成28年度よりシリーズ開催している。本年度は、現存する木造建築遺構から読み取れる技術的な特徴や、その発達過程における域内相互、さらには域外との関係性をテーマに、カンボジア・タイ・ミャンマーの3か国に主に焦点を当てて、報告・討議を行った。

日 時：2018(平成30)年12月16日(日) 10:30~17:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：52名

講 演：フランソワ・タンチュリエ(インヤー・ミャンマー学研究所理事)

「長期持続」にみる木造建築伝統とその発展に関するカンボジアとミャンマーの比較検討

ポントーン・ヒエンケオ(タイ王国文化省芸術局建造物課主任建築家)

「タイにおける木造建築技術の発展および近隣地域との相互関係」

討 議：モデレーター：友田正彦(文化遺産国際協力センター保存計画研究室長)

パネリスト：大田省一(京都工芸繊維大学准教授)

フランソワ・タンチュリエ

ポントーン・ヒエンケオ

文化財情報資料部

総合研究会(④シ)

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。平成30年度は下記のスケジュールで開催した。

- ・第1回 2018(平成30)年6月5日(火)
発表者：小山田智寛(文化財情報資料部)「文化財情報のデータベース化：その公開と課題」
- ・第2回 2018(平成30)年10月2日(火)
発表者：西和彦(文化遺産国際協力センター)「文化財保護法改正をどう考えるか」
- ・第3回 2018(平成30)年11月6日(火)
発表者：無形文化遺産部「無形文化遺産と災害」
- ・第4回 2018(平成30)年12月4日(火)
発表者：倉島玲央(保存科学研究センター)「漆の科学分析」
- ・第5回 2019(平成31)年1月8日(火)
発表者：飯島満(無形文化遺産部)
「東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵音声資料のデジタルアーカイブ化に向けて」
- ・第6回 2019(平成31)年2月5日(火)
発表者：中山俊介(文化遺産国際協力センター)「近代文化遺産の保存に関わって」

文化財情報資料部

文化財情報資料部研究会(④シ)

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。平成30年度の開催内容は

下記の通り。

- 4月24日(火) 田所泰(文化財情報資料部)「武村耕靄と明治期の女性日本画家について」
- 5月23日(水) 橘川英規(文化財情報資料部)「カリフォルニア大学ロサンゼルス校におけるアーカイブズの収受・保存・提供—ヨシダ・ヨシエ文庫を例に」
- 6月26日(火) 小野真由美(文化財情報資料部)「土佐光起著『本朝画法大伝』考一「画具製法并染法極秘伝」を端緒として—」コメンテーター：下原美保(鹿児島大学)
- 7月30日(月)「ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する研究会」
 二神葉子(文化財情報資料部)「ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する調査研究の概要」
 高桑いづみ(特任研究員)・長井尚子(中央大学)「ワット・ラーチャプラディットの漆絵に見られる楽器等のモチーフ」
 薬師寺君子(昭和薬科大学)「ワット・ラーチャプラディットの漆絵に見る故事人物図について」
 城野誠治(文化財情報資料部)「ワット・ラーチャプラディットの扉部材の撮影」
 犬塚将英(保存科学研究センター)「X線透過撮影によるワット・ラーチャプラディットの扉部材の構造調査」
 本多貴之(明治大学)「ワット・ラーチャプラディットの扉部材の分析」
 早川泰弘(保存科学研究センター)「ワット・ラーチャプラディット漆絵・螺鈿扉の蛍光X線分析結果」
 増渕麻里耶(文化遺産国際協力センター)「ワット・ナンチャー及びワット・ラーチャプラディットの漆絵・螺鈿扉の蛍光X線分析結果」
 山下好彦(漆工品保存修復専門家)「江戸時代後期の薄貝螺鈿技法に関する考察—ワット・ラーチャプラディット寺院螺鈿扉と輸出漆器」
 勝盛典子(中之島香雪美術館)「伏彩色螺鈿再考—技法と史的資料から」
 討議 コメンテーター：永島明子(京都国立博物館)
- 10月 2日(火) 神谷嘉美(金沢大学)「平時絵技法で用いられる金属材料の形状について—南蛮漆器作例を中心に—」コメンテーター：室瀬和美(漆工家)
- 11月27日(火) 京都絵美(東京藝術大学)「絹本著色技法の史的展開について—仁和寺所蔵孔雀明王像をめぐる一考察」
- 12月26日(水) 山本聡美(共立女子大学)「病苦図像の源流—静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華経变相図」について」
 相澤正彦(成城大学文学部)「静嘉堂文庫美術館本「春日曼荼羅」と高階画系」
- 1月29日(火) 江村知子(文化財情報資料部)「田中一松の眼と手—田中一松資料、鶴岡在住期の資料および絵画作品調書を中心に」
 多田羅多起子(京都造形芸術大学)「近代京都画壇における世代交代のきざし—土居次義氏旧蔵資料を起点に—」
- 2月28日(木) 米沢玲(文化財情報資料部)「二幅の不動明王画像」
- 3月26日(火) 谷古宇尚(北海道大学)「サハリンと千島列島の美術」

文化財情報資料部

東文研 総合検索(シ05の一環として実施)

東京文化財研究所が所蔵する図書や雑誌、展覧会カタログ、画像等の資料、東京文化財研究所の定期刊行物、国内外の美術関係文献等について、メタデータを横断的に検索することが可能なウェブデータベースで、デジタルデータを公開する「研究資料データベース」も含め、28件のデータベース、約126万件のデータを検索対象とする。検索画面は日英両言語に対応している。当研究所の定期刊行物については、本文のPDFデータを閲覧することも可能である。なお、日本国外における美術展覧会・映画祭開催情報、及び日本国外で出版された書籍情報に関しては、英国セインズベリー日本藝術研究所が採録した情報を受け入れている。